

- 1 派遣期日 平成23年10月13日(木)
- 2 派遣先 学校名 静岡大学教育学部附属浜松小学校
所在地 静岡県浜松市中区布橋三丁目2番1号
<http://www.hamasho.ed.shizuoka.ac.jp>

3 研修内容

(1) 全体会

第89回 教育研究 未来を拓き、生きる子ども

～豊かな学びにつながるプランの創造～

【第1年次】

「未来を開き、生きる子ども」に願う子どもの姿として、他と共に生き、自ら成長していくことを考え、「自分を見つめ、主体的に生きる」「他者と共に成長する」「自然や文化を大切にしながら、より良くかかわり合う」とおさえた。

「自分を見つめ、主体的に生きる」

自分のよさや弱さを知り、よさは生かそうとしたり、弱さを直そうとしたりすることである。失敗してもやり直し、粘り強く挑戦していくことや自分がやろう決めたことに責任をもってやりぬこうとする。

「他者と共に成長する」

人は、一人では生きていけない。社会の中での他者の存在を認め、意見や考えを尊重してかかわることが必要である。また、共に生きる中で学び、成長していくために、社会のルールやモラルを尊重しようとする。

「自然や文化を大切にしながら、より良くかかわり合う」

人は、自然や文化の中で生きている。この中で生きていくためには、自然の素晴らしさや厳しさを知り、自然の中で生きることや常に新たな文化を創造していこうとする。

これらの3つがバランスよく育まれることが必要であり、社会の中で身につけていくために学び続け、自分を成長させながら生きていくことを「未来を拓き、生きる」ととらえる。

研究構想図

研究課題 豊かな学びにつながるプランの創造

学びを豊かにするために高めていきたい 3つの資質

自立性⇒事象に自らかかわり、責任をもって課題を解決しようとする。

関係性⇒仲間の存在や考えを認め合うよさを感じ、かかわり合おうとする。

有能さ⇒自分のよさや可能性の気づき、満足感や自己肯定感を得る。

学びを豊かにするために子どもにつけたい 4つの力

「事象から課題を見つけ出し、解決する力」

感じる力 ・ 見通す力 ・ 追求する力 ・ 表現する力

視点1 豊かな学びを具現化する学びプランの創造

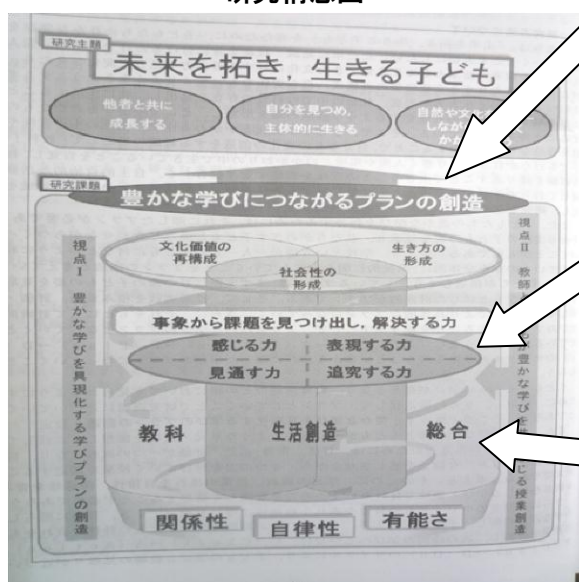
視点2 教師と子どもが豊かな学びを共に感じる授業創造

3つの領域の学びのプランの創造

①「教科」 子どもは、学びながら社会的、文化的な営みをしていく。

②「総合」 子どもは、個人の学び、他者とのかかわりの中において学んでいくことで、自らの責任をもってよりよく生きようとする生き方を形成していく。

③「生活創造」 子どもは、社会で存在としての自己を見つけ出す社会性を形成していく。「教科」「総合」「生活創造」は、異なる目標をもちながらも、それぞれが影響し合っている。



(2) 総合

「総合」では、子どもは、自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決する資質、能力を養う。個人の学びや他者との中において行う学びを通して、自ら責任をもってよりよく生きようとする生き方を形成していく。子どもは、学びながら、「生き方の形成」の営みを形成していく。そこで、「総合」の目的を次のようにおさえた。

身の回りの事象（ひと・もの・こと）と直接かかわる活動や体験をもとに、自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決する資質、能力を身につけながら、自ら責任をもってよりよく生きようとする。

「総合」の学習では、自然、人権、国際理解、地域文化、性、消費者、生命の7つの「学習領域」をもとにして、13の「学習テーマ」で構成する。

各 期	学習領域	自然	人権	国際理解	地域文化	性	消費者	生命
低学年 (生活科)	学習 テ ー マ	①学校生活に適応する ②季節感を味わう ③生物とふれ合う ④自分の成長を振り返る						
中学年		⑤ものを作る ⑥地域文化にふれる ⑦自然と人間とのかかわりを見直す						
高学年		⑧食と文化のかかわりを探る ⑨公共の人やものとかかわる ⑩性差と役割について考える ⑪生命の大切さを考える ⑫自分を見つめる ⑬世界を見つめる						

(3) 公開授業参観

① 第6学年1組 総合「働くって 何だろう」 授業者 児玉 健一郎教諭

本時の目標 ゲストティチャーに質問したり、ゲストティチャーに話を聞いたりすることで、ボランティアをしている理由やその人の生き方に気づくことができる。

展 開 ボランティアで活動している「雲を耕す会」の池谷さん、「いーら旅行舎」の古橋さんを招き、活動の目的や理由などについて、実際に話を聞く。自分たちで予想したことと比べ、気づいたことをまとめる。

利益のためにではなく、「地球のため」「人のため」に活動している方々との交流を通して、それまで自分たちが考えていたこととは異なるゲストティチャーの思いや生き方にふれることができた。友だちと意見交換をしながら、働くことの価値について深く考えるきっかけとなっていた。

② 第3学年2組 総合「発見！浜松じまん」 授業者 太田 充教諭

本時の目標 浜松時の味じまん(食の特産品)を作ったり、広めたりしようとしている人々との交流を通して、浜松市の味じまんに対して疑問を解決したり、取捨選択をしたりする

展 開 みかん農家の方、鰻養殖業者の方、餃子学会の方、うなぎパイ工場の方を招き、話を聞いたり質問をしたりする。

「どんな種類のみかんがあるのか」「鰻はなぜぬるぬるするのか」「どんな材料を使っているのか」「家でうなぎパイを作ることはできるのか」など3年生らしいたくさんの質問が、付箋紙に書かれゲストティチャーに質問されていた。質問して分かったことを記入したり、新しい疑問を書き加えたりしながら、ワークシートに整理し、まとめ上げていた。

4 感想

今まで学んできたことを自ら振り返ることで、子どもたち一人一人が深まりや広がりを実感できる授業であった。ゲストティチャーや友だちとのかかわりを通して、様々な人々の思いに気づくことができていた。そのことが次の学習活動へのさらなる意欲・課題追求へとつながっていった。

今年度一年次の発表であったが、前年度5年次で完結となった『自己』を豊かにする～学び合いの質を高めるの研究が、全教科にわたり教師や子どもの力となって顕著に表れていた。附属浜松小の研究構想を参考に、本校の単元構想を見直し、子どもの思いを大切にしながら、学習意欲を高める環境設定に取り組んでいきたい。

3年生の授業風景

